



6月3日から、ワシントン条約の会議が開催されています。

6月3日～15日、第14回ワシントン条約締約国会議がオランダのハーグで開催されています。トラフィック イーストアジア ジャパンは、締約国会議に向けて数回のシリーズでワシントン条約関連情報を各マスメディア関係者の方々に配信することにしました。会議に関する正確な情報の入手や取材の参考としてお役立てください。また、ご不明な点や詳細に関してはトラフィックまでお問い合わせください。

2種のサメの附属書Ⅱへの掲載提案

提案15, 16：ニシネズミザメ *Lamna nasus* とアブラツノザメ *Squalus acanthias* の2種のサメを、新たに附属書Ⅱへ掲載

[提案国：ドイツ (EUを代表して)]

ニシネズミザメ *Lamna nasus*

生息域：温帯海域の広い海域に分布
脅威：利用を目的とする漁獲、混獲
利用方法：肉やヒレを食用とする
IUCNレッドリスト：危急種 (VU)



© Ivo Natanson / NOAA NMFS

アブラツノザメ *Squalus acanthias*

生息域：温帯海域の広い海域に分布
脅威：利用を目的とする漁獲
利用方法：肉やヒレを食用とする
IUCNレッドリスト：危急種 (VU)



© Andy Murdoch/Elasmobranch

- 特徴的な生活史、例えば「寿命や世代交代の期間が長く成長が遅い」、「生まれる仔魚が少ない」、「成長ステージごとにまとまって移動をする」→過剰漁獲による影響を受けやすい。
- 他の漁獲と混じって混獲されるほか、商品価値の高い肉やヒレなどをねらい、その種を標的とした漁獲もおこなわれている数少ないサメ類の種である。

→トラフィックはこれらの提案に賛成している。

ノコギリエイ科全種

Pristidae spp.

属するすべての種が2006IUCNレッドリストのCR (近絶滅種)とされ、生息数減少が危惧されるノコギリエイ科 Pristidae spp.全種の附属書Ⅱへの掲載をケニアと米国が提案



© Matt Garvey & Chris Gardner

生息域：亜熱帯や熱帯の淡水、沿岸海域
脅威：広範にわたる漁獲による偶発的な捕獲、生息域の喪失
利用方法：肉やヒレを食用とする/珍品としての吻(鼻) / 皮革製品 / 水族館展示

トラフィックはこの提案に賛成している。

その他、サメ類についての検討事項

今回の会議では、ワシントン条約動物委員会からサメ類に関する文書が提出されている (CoP14 Doc.59.1)。サメ類の保全と管理に関する内容を含み、自身の役割を含めた、締約国、ワシントン条約事務局への提案が述べられたもの。

トラフィックは提案の中で特に以下の観点に注目

- ー世界のサメ類漁獲国・地域が、FAOと協議の上、種別に漁獲/混獲/廃棄/市場/国際取引に関するモニタリングと報告をおこなうこと。
- ーサメ類漁獲国・地域は地域漁業団体やFAOと協調して、サメ類の保護および管理に関する国際行動計画 (IPOA-Sharks) を改善または見直し、進捗報告を動物委員会でおこなうこと。
- ーサメ類の輸出入国は、種と製品タイプが判別できるよう、サメ類の標準化された製品コードを採用すること。など

これらの提案をトラフィックは支持している。また、提案を施行するにあたり、ワシントン条約とFAOの緊密な協力関係をトラフィックは奨励している。

世界のサメ類の漁獲と輸出
トップ10 (2005年)

漁獲 (%)	輸出 (%)
インドネシア 14.11	台湾 17.75
インド 8.04	スペイン 12.79
台湾 5.94	日本 5.48
メキシコ 5.06	パナマ 5.44
スペイン 4.92	UK 5.00
アルゼンチン 4.81	カナダ 4.50
米国 3.88	コスタリカ 4.49
日本 3.40	アイルランド 4.12
タイ 3.26	チリ 3.57
マレーシア 3.25	ナミビア 3.27

IUCN, TRAFFIC and WWF briefing documentより

日本でのサメ、エイの利用

日本では、ニシネズミザメと同属のネズミザメ *L. ditropis* がサメの漁獲の中でヨシキリザメに次ぐ第2位を占めているが、ニシネズミザメについては日本のマグロ延縄漁船が混獲し、漁場近くの漁場で水揚げされていることが知られている程度。

一方アブラツノザメは、日本でも水産価値が高いとされるサメで、古くから漁獲されている。2001年から2005年までの日本の漁獲量が、年平均 673 t と、日本のサメ・エイ類の全漁獲の2~3%を占めている。古くから様々な形で利用もされている。東北地方で肉や、かまぼこなどとして食用に利用されるほか、肝油や軟骨エキスなどとしても利用される。

日本の、サメ類 (肉、その他) の輸入量は、年間 1,000 t 近くにのぼる。国別ではスペイン、中国、カナダが主な日本向け輸出国となっている (財務省貿易統計)。

(出典：水産総合研究センター2007、食材魚介大百科)

トラフィックジャパンのここに注目

ワシントン条約では、海産種がホットな話題

関連ウェブサイト

トラフィックネットワーク (英語) : www.traffic.org
トラフィックジャパン (日本語) : www.trafficj.org